

＜官房長会見報告＞

寺田大臣官房長に 職場の問題点を訴える！

管理職ユニオンニュース

国土交通省

No.375
2023 年 10 月 27 日

【発行】
国土交通省管理職
ユニオン

【所在地】
東京都千代田区
霞ヶ関2-1-2 中央
合同庁舎2号館
TEL 03-3509-1138

【Email】
k-union@aloha.ocn.ne.jp

【ホームページ】
[http://www-k-unionnetwork/](http://www.k-unionnetwork/)

国土交通省管理職ユニオンは、十月十三日に官房長会見を実施しました。会見では近藤委員長から、長期災害でも持続可能な執行体制の確立、部下職員の育成、六十歳以降の働き方、職場の不祥事の連鎖、労使関係の五点について、問題点を訴えました。

□ 口頭の挨拶

官房長からは冒頭『全国のそれぞれの部署で管理職として責任のある立場で様々な分野でご尽力頂いている。まずは私からお礼申し上げる』

と謝辞を述べ、災害対応に対する国民の期待、公務員を巡る環境や、働き方改革を含む勤務環境の改善などについて発言があり、落ち着いて仕事が出来る環境を作っていきたいと発言されました。

□ 長期災害でも持続可能な執行体制の確立

委員長からの空きポスト、人手不足、定数確保、昇格・諸手当など管理職の職責に見合った処遇の要望に対して、官房長からは『定員の確保は非常に重要だと我々も思っている。政府の合理化目標もあるが、防災減災も考慮し、査定当局に対して業務の重要性、職場実態などを丁寧に説明して、できる限り要



寺田官房長

員の確保を最大限努力していきたい』と発言されました。

□ 部下職員の育成

委員長からの若手職員が減少、技術の継承が課題、教えたくても教える側が多忙、人を育てる余裕が必要素との訴えに対して、官房長からは『若手職員にはたくさん入って頂き、しっかりと充実した形で勤務して頂くというのが組織の活力を維持する基本だと思ふ。もちろん定数の話もあるが、まずは入ってきてく

□ 六十歳以降の働き方

れた若い人にそれぞれの能力の適正を踏まえ、成長するための色々な機会を持つてもらい、学んで頂く事が大事だと思う。若い人が経験を積んでもらうためにも一定の要員の確保が前提となる』と発言されました。

定年延長、役職定年、給与水準割など、制度説明はあったが、働き方やモチベーション維持に不安の声があり、きちんとした説明が必要との意見に対して、官房長官からは『役降りの後のポストでどういう仕事をするのかは気になるところだと思う。具体的には業務上の必要性あるいは組織や定員の状況を踏まえ、本人の希望を尊重して決めていくことに



連鎖 □職場の不祥事の

（表面よりつづく）
なると思う。長年に渡って色々な経験や能力を培われてきている方々なので、それを生かして業務に取り組んで頂く』と発言されました。

中部地整港湾事務所の不祥事について、事務

所長の逮捕となったが、予算消化、補正予算、繰り越し事務など根本的な問題は何か、類似のケースは全国であるのではないか、との意見に対して、官房長からは『第三者委員会の報告では予算執行への重圧が指摘されている。個々の職員が不当にプレッシャーを感じる必要はなく、きちっと組織全体で業務執行をしていくということが本来の姿。一人で悩まないようにする、あるいは皆でそういう認識が出来る様な仕組みを作っていくことが一番大事なのかなと思う』と発言されました。

□労使関係

年間に会見一回、交渉一回の現状の改善を要望したのに対して、官房長からは『私がこの場で年何回だとか約束をすることはなかなか難しい。皆さんと意志疎通して話し合っていくということはすごく重要なことだと思うので、窓口を通じて、引き続きコミユニケーションを是非とらせて頂きたいと思う。もちろん労使それぞれの立場で考えとかスタンスがあるので全ての点で問題意識とか方向性を一致することはないかもしれないが、やはり話し合っ一緒に協力出来るところは一緒に考えて解決方を考えていきたいので、引き続き相談させて頂ければと思う』と発言されました。

□その他

最後に委員長は、若手の辞職増加について意見を求めたのに対して、官房長は『若い人が辞めていくことはすごく寂しい。この組織の魅力を感じて定着してもらおう我々としても頑張っていきたいと思う』と発言されました。

< 中央執行委員補充選挙結果 >

下記の2名が信任当選しました。
よろしくお願ひします。

○中央執行副委員長
中部支部(三重)

秋田 尚孝

○中央執行委員
中部支部(庄内川)

神村 章治

「管理職アンケート」実施中!
アンケートに御協力を!!



管理職ユニオン